

科学研究費補助金(基盤研究(S))「日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充」主催
長野教育文化振興会協力

2013年度秋期【新・古典を読む-歴史と文学-】

第4回 和歌からみた東日本の古代交通 -「橘為仲集」からみた-

開講日時：11/23 (土) 午後2:30～4:30

講義会場：金鵝会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：早稲田大学 文学学術院 教授
第一文学部 総合人文学科 教授
川尻 秋生(かわじり あきお)先生

概要： 古代の交通については多くの研究があるが、こと東日本についてはとくに史料制約が大きく、いまだ十分に解明されているとは言い難い。そこで、本講座では、従来、見過ごされてきた平安時代の和歌を素材にして、東日本の古代交通の特色について私見を述べたい。

橘為仲は、院政期初期の官人であり、「橘為仲集」という私家集が残されている。彼は、越後守や陸奥守を歴任したが、任地に赴く道すがら、地名を読み込みながら和歌を詠んだ。その地名を追いかけることによって、当時の国司がどのようなルートで任地に下向・上京したのかという点を連続的に明らかにできる。とくに信濃国を経由した和歌も残されているので、信濃の地域史・交通を考える上でも、興味深い素材を提供することになる。